

朝日連峰 三面川泥又川～猿田川赤イ沢

古野

【日時】2006年8月13日～15日

【メンバー】古野（L）、中村、栗原、山川

「もう飯豊朝日を切り上げて北アルプスでも行かないか」という電話もあったが朝日の沢の中でも比較的易しいらしいという泥又川、枳形川方面はどうだろうということで地図や記録、天気予報とにらめっこ。結局スーパー林道側から泥又川に入り、山頂までは行かないで山越えて戻ってくる、というルートに決めた。直前に手嶋さんから足の具合が悪いという知らせがあり、追い打ちをかけて栗原さんからの足の違和感があるという電話がかかった。（車の対応も大変だとアオくなる。）

結局栗原さんは行けることになり天気予報から入山を一日遅らせた。後で聞くとこれは正解だったようで先行していた石井Pなどは半日足止めをされたそうだ。

村上市郊外の道の駅は温泉もあって良いところだ。三面ダムへの道は思った以上に狭くて曲がりくねっている。これでは小国からの三面林道とあまり変わらない。大きく高巻いていた道が猿田川に近づくと石黒沢出合である。確かに何台か車を置けるスペースがある。一台を赤イ沢出合付近に回した後に対岸に渡る。すでにアブの出迎えが始まっている。尾根道もあるということであったが沢を登ることにする。キツイ沢ではないが一カ所滑りそうな垂直の3mの滝がありゴボウで登ったもののズリッと滑ってしまった。このちょっとした山越えて早くも息が切れてしまい足も上がらない、この先最後まで行けるかなぁ、と弱気になる。

下りも巻かないといけない滝が3つほどあり予想以上の時間がかかって泥又川本流に出る。下りなので息切れは収まってきた。本流は渡渉が気にならないほど水量が少なく、地図で見るゴルジュマークのイメージと違い河原の多い穏やかな流れであった。



アブが初めての山川さんは早くも防虫ネットをかぶっている。後で聞くと「キレる寸前だった」とか。まあこれで例年くらいの数ではないかな。

河原歩きで、平地でもあって思ったより距離を稼げる。前方に二人の釣り師を見つけた。一人は右岸の岩壁を辿って降りてきた。ゴルジュになっているらしい。そこを辿り、門扉のような手前の岩の上から見ると、向こうにえぐれたように釜があり5m位の滝がある。栗原さんは右から壁を器用にへつって下にいる。滝の右壁も厳しそうで高巻きも考えるが兩岸とも厳しそう。滝の右壁を空身でも行こう、とまずは釜に降りることに。山川さんは残置ハーケンにシュリングをつないで足場の少ない壁を器用に降りる。

よく見ると正面右にトラバースで行けそうなルートがあり、残置がある。ここはクライマー・栗原が背丈も活用してクリアした。うまいねえ。

ザックを荷揚げしていると大粒の雨が降ってきて焦ったが、すぐに止んだ。

滝上からはまた河原になる。支沢を調べているとどうも地形が合わない。よくよく考えると今突破してきた滝が「大明神の滝」だったようだ。思ったよりも速いペースに表情が緩む。一休みして竿を出すと中村先生にきましたね。河原は減って岩が多くはなってきたが滝といえるものはない。二俣まではすぐだ。二俣は河原も狭くてテン場も見あたらない。テン場があるとしたらこの辺だろう、と予想をつけた高台のヤブの中に外からは見にくい、切り開いたテン場があった。それほど汚くはなかったのでここを借りることにする。

せつかくだから、と再び竿を出して東俣沢に入り一匹ゲット。欲はほどほどがよい。女性陣の酒量が少ないこともあって焦ることなく酒とつまみを堪能した。山川シェフの本格中華（名前は難しくて忘れた）を頂く。

高度が低いためかネットをかぶって寝ていると暑くなり、目が覚める。朝はアブの代わりに小さな蚊のお出迎えだ。防虫ネットを忘れてきた栗原さんは大変だろう。

西俣沢は最初ゴルジュが出てくるが通過は難しくない。高巻いたのは15m直瀑だけで、それも小さく巻けた。直登出来る4mを越えると上部三俣。地形図を慎重に見て左に入る。

この時点で9時30分だったのでうまくいけば赤イ沢の下流まで行けるのかなあ、思っていたがそれほど甘くはなかった。

入ってすぐに岩の細かい6m滝に出会う。登れなくはないと思うが岩も脆そうで確保も難しそうだったので戻ってルンゼから巻くことにする。まあ高巻きらしい高巻きだった。

その後はガレっぽい沢で徐々に高度を上げていくため体力さえあれば登れる、という感じ。下から見える稜



大明神の滝

線下のスラブを上手くすり抜けて稜線に着いた。

ちょうど12時前で無線機を出して交信を試みる。ちょうど石井Pも枳形山への稜線についてつながった。彼らは若干ショートカットしているようだ。岩田パーティーとは連絡取れてないようだ。

下りは結構長く、また沢形が出たものの段差の大きな滝があつて巻いたり、と時間がかかった。登りの疲れが下りに出てきてスピードが上がらない。赤イ沢の本流とおぼしき沢に出てしばらくしてから岩峰の側に滝があり、ここは懸垂。一部空中で水しぶきをかぶる。

当初予定していたC. 380m付近の三俣はテン場適地が無く次の右岸の支沢出合も無く、そのすぐ下流部に物件を確保。平坦度はイマイチだが河原もあり、周囲はブナの気持ちよい林になっている。

意外と薪が湿っていて火がなかなかつかない。それでも直前に濡れた体を温められる火になる頃にはつまみが出そろっていた。まあ予定以上の進み具合だ、とゆったりした気分になれた。ここは河原に近くてヤブが少なかったので夜中、虫は少なかった。残りの行程は少ないと思われるが念のために4時起きにする。

ここからの下流は砂岩系の岩が適度に発達してミニゴルジュと開けた部分が交互に現れる。支沢の割には水量もあり、へつったり飛び込んだりと朝早くから水遊びの世界になる。心配していたゴルジュの中の滝も無く早々と猿田川本流に出、目の前の踏み跡はそのままスーパー林道に導いてくれた。

今回は地形図や記録からかなり苦勞をするのではないかと心配したが、その意味では雪渓もなく、あつけないくらいの難度だったと思う。核心部はやはり「大明神の滝」だろう。

自分にとっては、去年の飯豊大石川が雨でつぶれ、久しぶりにアブの夏の山行を予定通り完遂出来たという感慨はあった。が、若い人たちには少し物足りなかったのではないだろうか。自分の体調、ペースが気になり、リーダー的な動きが出来なかったのは申し訳ないと思う。

この暑い中、山にも入れずに過ごした手嶋さん、また一緒に行きましょう。

【グレード】 2級上

【行程】

8/13 石黒沢出合 (8:40) ~ 泥又川 (11:00/15) ~ 二俣 (15:20)

8/14 二俣 (5:50) ~ 上部C630m三俣 (9:10/30) ~ 稜線 (11:35/12:05) ~ 赤イ沢 C360m付近BP (16:00)

8/14 BP (5:35) ~ スーパー林道 (7:30)

【地図】 鳴海山、円吾山、大鳥池、相模山

【温泉】 まほろば温泉(道の駅あさひの中にある)

